

## 古希お祝いの演奏会

2016-06-04

今日は、合唱指揮者・北川博夫先生の古希&指揮活動 35 周年をお祝いする演奏会にに行ってきました。先生が教えてらっしゃる合唱団が勢揃いして総勢200名以上という大合唱団で、オーケストラ伴奏での演奏会、とても迫力のあるものでした。

北川先生ご夫妻には本当にお世話になっていて、この仕事を始めたばかりの頃より、たくさんの経験をさせていただきました。今回の演奏会のリハーサルでも、練習ピアニストをつとめさせていただいておりました。

この日の演奏会は、先生のふるさとをテーマに選曲されていて、まずオープニングは、先生が留学なさった場所であり、もうひとつのふるさととも言うべきウィーンゆかりの曲から始まりました。華やかなカラードレスに身を包んだ女声コーラスで、ヨハン・シュトラウスの『美しき青きドナウ』と『春の声』の二曲を演奏。『春の声』のソリストは、清水知子さんがつとめられました。

そして第二ステージは、これまたウィーンゆかりの作曲家であり、合唱とともにリートを多く学ばれた先生にとって大切な作曲家である、シューベルトが作曲したミサ曲第2番。ソリストは、三宅理恵さん、村上公太さん、そして北川先生ご夫妻のご長男である北川辰彦さんという豪華な顔ぶれ。

そうそう、ナビゲーターにはなんと、フリーアナウンサーの住吉美紀さん、北川辰彦さんと一緒に、いろいろなお話で演奏会をより楽しくすすめてらっしゃいました。

第三部は、オーケストラにはお休みいただいて、北川先生ご夫妻のご長女・美歩さんのピアノ伴奏でオペラアリアの饗宴。シューベルトのソリストで歌われた3名に加えて、澤村翔子さんが歌われました。

そして第四部が、先生の故郷である富山の曲。富山出身の作曲家、岩河三郎さんが作詞構成 & 作曲された『富山に伝わる三つの民謡』のオーケストラバージョンでの演奏でした。

プロローグ(夏の思い出)、「越中おわら」、「こきりこ」、「むぎや」、エピローグ(冬の思い出)という五曲から成り、そのうち合唱が登場するのは真ん中の三曲です。

これがまあ、本当に素晴らしかったのです。文京シビックホールの大きな舞台をうめつくす、大合唱団とオーケストラ。

練習でこの曲を弾くたびに、いつもなんともいえない高揚感というか、血がフツフツするようなものを感じてました。身体の中からうまれてくる

リズム感とでもいうのでしょうか。これが日本人のDNAなのか、と実感してました。それは私だけでなく合唱の皆さんもそのようで、この曲になるとイキイキ感というか、全員のリズム感の揃い方というか、息の合わせ方が、全然他のものと違うのです。自然に上手い！DNAのなせるワザでしょうか。ピアノでも盛り上がる曲が、オケになってさらにさらにパワーアップ。もうね、和太鼓とか鳴り物の音が聴こえてくると、たまりません(笑)皆さんも大熱演でした。その熱は客席にも伝わったようで、ホールをうめつくしていたお客様も一曲終わるごとに大きな大きな拍手！！感動的な演奏でした。

